

SDGs を楽しく、わかりやすく学ぶためのアイデア



今回の紙上インタビューは、一般社団法人 Think the Earth 上田壮一 理事にお伺いしました。上田理事は、持続可能な社会創生のための教育を実践する現場の先生と生徒を応援する取組みをされています。SDGs をテーマに授業をしたいが、どこから、どのように取り組むか、アイデアや様々な視点がほしいという皆さまの実践のご参考となれば幸いです。

Q1) Think the Earth 上田理事の、教育分野での取り組みについて教えてください。

Think the Earth は「エコロジーとエコノミーが共存する持続可能な社会」を目指し、社会や環境の問題を「自分ごと化」し、クリエイティブにこれらの問題に取り組む人や企業を増やしていこうと 2001 年にスタートした活動です。

2003 年から『1 秒の世界』『世界を変えるお金の使い方』『気候変動+2℃』『いきものがたり』『みずものがたり』『たべものがたり』と続く計 6 冊の本を、環境教育の副教材として全国の学校に届ける活動を行いました。

その後、東日本大震災と原子力発電所の事故によって、エネルギー問題に対する関心が高まったことを機に、経済産業省資源エネルギー庁と共に「エネルギー環境教育」をテーマにした「グリーンパワースクール」という活動をスタートしました。このとき、つくったのが『グリーンパワーブック 再生可能エネルギー入門』という本です。この本からは全ての学校に一律に贈るのではなく、教材が欲しい先生に届けるプログラムに変更しました。その結果、約 300 校の先生たちとのつながりができました。授業を実施された先生たちと直接出会う機会にも恵まれました。出張授業を頼まれて全国の様々な学校に出向くことも増え、現場の教師の方たちと対話する時間が増えていきました。

参考 URL :

Think the Earth <http://www.thinktheearth.net/jp/>

Think the Earth の図書館 <http://www.thinktheearth.net/jp/library/>

グリーンパワースクール <http://www.gpschool.net/>

Q2) 「SDGs for School プロジェクト」の取組み内容や始めるに至った想い、SDGs を題材にした際の教育現場での反応について教えてください。

「グリーンパワースクール」を行っていた 2015 年に国連で SDGs が採択されました。利害を異にする国々が全会一致で「持続可能な開発」というキーワードで合意したことに、大きな感動を覚えました。

「持続可能な社会の創り手の育成」が前文に謳われた学習指導要領改訂も後押しとなって、SDGs を楽しくわかりやすく伝えるビジュアルブック（や映像）をつくり、ニーズがある学校の現場に届けよう！ということになり、有志の教師の方々と共に SDGs for School プロジェクトがスタートしました。2017 年にクラウドファンディングで資金を集め、JICA や国連広報センターの協力、企業からの支援もあり、2018 年 5 月に無事に『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』が完成しました。公募したところ想

像以上に多くの先生が反応くださり、結果的に約 300 校の学校に届けることができました。8 月下旬には、応募校の先生たちが集まって情報共有し、未来の教育デザインについて考えるワークショップなどを行います。

ある先生が「本来、学びは楽しいはずなのに、いま学校からは子どもたちの笑顔が消えている」という話をされました。この話がずっと心に残っています。「試験のための勉強」では笑顔になれるのはほんの一部の生徒だけです。でも SDGs を教材にすると、生徒たちの心のなかに「未来をつくるために学びたい」という気持ちが湧き、目が輝き始めます。SDGs for School は、この「未来をつくるために学ぶ喜び」を全国の学校に届けたいという想いで始まったプロジェクトなのです。ウェブサイトで活動の報告のほか、学校で役立つ情報発信もしています。「ティーチャー登録」ができるようになっていきますので、ぜひ参加してみてください。

参考 URL : SDGs for School <http://www.thinktheearth.net/sdgs/>

Q3) 上述の「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」では、SDGs に関する世界各国の様々なアイデアを取り上げていますが、教育現場でのこれらのアイデアの活かし方や、教育現場で SDGs を題材にする際のポイントをご紹介ください。

SDGs を活用した教育プログラムは、大きく 3 つのステップがあると思っています。ステップ 1 は「SDGs を学ぶ」、ステップ 2 は「SDGs で学ぶ」、ステップ 3 は「SDGs でつながる」です。

ステップ 1 では「試験に出るから 17 個のゴールを覚えよう！」なんて言ってしまっただけでは台無しです。そのため、私たちは、本来切っても切り離せない 17 個のゴールを敢えて切り離し、4 人から 5 人くらいのグループで、「みんなで話し合っ、大切な順にならべてみる」というワークをよく行います。

全てのゴールが大切なので、もちろん正解はありません。でも、わずか 15 分ほどの時間であっても、個々人のバックグラウンドから出てくる多様な価値観が現れ、意義あるディスカッションになります。このワークのあと「経済、社会、環境」の 3 つの軸、あるいは「5 つの P」(※) など、SDGs の成立プロセスで議論されたことを伝えることで、17 個のゴールが構造化され理解しやすくなります。

ステップ 2 では、よく知った社会・環境課題でも SDGs というメガネを通してみると、複数のゴールとつながっていたり、あるいは他のゴールと矛盾する関係にあたりするなど、複眼的、俯瞰的な視点で学び直すことができます。たとえば、ゴール 12 は「つくる責任、つかう責任」ですが、中高生でも必ず当事者である「消費者」という立場から、例えば「パーム油」を題材に、自分たちの消費が世界の課題とどうつながっているかを探索していくことで自分ごと化していく授業も行っています。

社会のことを教室で学ぶのは限界があります。SDGs を共通言語に教室を飛び出し、リアルな社会とつながり、本質的な社会課題と向き合うステップ 3 が最も重要です。書籍『未来を変える目標』の特徴のひとつは、世界各国の事例を「アイデア」に焦点をあてて紹介していることです。すでに世界で実行されているアイデアを本から学んだ上で、地域の課題を調べ、それを解決するアイデアを実際に発想し、生まれた構想を地域の行政や企業にプレゼンしてみるのはいかがでしょうか。

※「経済、社会、環境」と「5 つの P」

SDGs は「経済、社会、環境」の 3 つの側面のバランスのとれた、持続可能な開発をめざします。また、「5 つの P」(人間 (people)、地球 (planet)、豊かさ (prosperity)、平和 (peace)、パートナーシップ (partnership)) のための目標であり、国際社会のパートナーシップにより実現をめざします。

出典 : <https://www.unicef.or.jp/sdgs/concept.html>

Q4) 開発教育・国際理解教育に関心を寄せる読者のみなさまへ、今後の取組みにつながるようなメッセージがあればお願いいたします。

SDGs のキーワードのひとつに「Transforming Our World = わたしたちの未来を変える」という言葉があります。17 個のゴールが示す未来を「これまでとは違う方法で」達成していこうと呼びかけています。つまり、いまの社会システムのルールに縛られた大人たちよりも、子どもたちの柔らかな発想がとて大切なのです。

SDGs は万能薬ではありません。SDGs から取りこぼされた課題や、矛盾もあります。気候変動が激化していくように、世界の課題もダイナミックに変化して、もしかすると SDGs では到底解決できない事態になってしまう可能性だってあります。いま 15 歳の中高生は 2030 年には 27 歳。ちょうど社会人になりたての頃です。SDGs の次のゴールづくりに参加しているかもしれません。SDGs を越え、2030 年よりさらに先の未来を、子どもたちと一緒に考える視線も大切でしょう。

SDGs に関しては「大人も子どもも 1 年生」です。未来を子どもたちに託すのではなく、子どもたちと一緒につくっていくという姿勢が SDGs for School の考え方です。子どもたちから見れば、未来を考えて行動する、たくさんのかっこいい大人たちがいて、共に学び、アイデアを出し、行動することで「未来は生きるに値する場所」だと信じられる世の中をつくりたいと願っています。